

中央区の花火と祭り

毎年、たくさんの人にぎわうんだよ。



中央区には、昔から日本を代表する花火大会や祭りが行われている。どんな花火と祭りがあるのか見てみよう。

<花火は夏の風物詩>

毎年多くの人々に親しまれている花火大会。東京だけでなく、全国に知られており、日本を代表する花火大会の1つだ。テレビでも放送される花火大会がある。

●東京湾大華火大会

晴海ふ頭公園先の東京港から1万2000発の花火が打ち上げられる。毎年8月第2土曜日に開催。1988(昭和63)年からはじまった。



●隅田川花火大会
毎年7月の最終土曜日に行われる花火大会で、隅田川で行われる。もともとは「両国の川開き」とよばれていた。



花火で死者をなぐさめた

徳川吉宗の時代、1732(享保17)年に、大きなこととなり、さらに、はやり病も起こった。その供養と災害がないようにいって、両国の川開きが行われ、初日に花火が打ち上げられた。これが隅田川花火大会のはじまりだ。

たくさんの人がなくなったって。



「かぎ屋」「玉屋」と言うのはなぜ?

「かぎ屋」と「玉屋」は、江戸を代表する2大花火師の名前で、江戸の花火の人気を二分した。かぎ屋(かぎ屋弥兵衛)は横山町に、玉屋(玉屋市郎兵衛)は両国広小路の辺りで技をみがき、競い合っていた。かけ声は、花火大会で、両者を応援するためのものだった。



<氏神と祭り>



みんなが住んでいる地域は、どの氏神様かな?

どの地域にも昔からその土地の守り神がいて、その神を氏神という。その地域に住む人を氏子とよび、みんなで氏神を大切にしている。中央区は6つの神社の氏子地域となっており、感謝の気持ちをこめた祭りが毎年行われている。



山王祭
毎年6月15日に行われる。神田祭と深川八幡祭りと共に江戸三大祭りの1つ。神楽はやし、山王たいこなど出しものがいっぱい。写真は、昔の衣装でみこしをかつぎ歩く神幸祭のようす。

日枝神社
千代田区永田町二丁目10-5
千代田区永田町にある神社。日枝神社の氏子地域は、八重洲、日本橋、茅場町、八丁堀、京橋、銀座、大手町、丸の内、霞が関、永田町など。

鉄砲洲稲荷神社例大祭
5月2~5日に行われる。3年ごとに大祭がある。写真は、改修前の歌舞伎座の前を通るみこし。



つきじ獅子祭
毎年6月に行われる。赤と黒の獅子の頭をかつぎ、築地の町をねり歩く。



神田祭
5月15日に行われる。徳川将軍も見たため、山王祭と共に天下祭ともいわれる。大祭は山王祭と1年ごとに行われている。

●神田明神(神田神社)
千代田区外神田二丁目16-2

千代田区外神田にある神社。1300年近くの歴史をもつ。氏子地域は、神田、日本橋、秋葉原、大手町・丸の内など108の町。

深川八幡祭り
富岡八幡宮の例祭は8月15日ごろに行われる。3年に一度の本祭りでは、八幡宮の御鳳輦(めでたい鳥を飾ったみこし)が進む。大小合わせて120数基のみこしがかつがれる。



●富岡八幡宮
江東区富岡一丁目20-3

江東区富岡にある神社。江戸初期に建てられ、江戸の八幡様と親しまれた。氏子地域は、日本橋箱崎町、新川、清澄、白河、深川、木場、東陽など。

●鉄砲洲稲荷神社
中央区湊一丁目6-7
中央区湊にある神社。江戸時代は鉄砲洲湊があったため、海の神としてまつられた。氏子地域は、銀座、新富町、入舟、湊、明石町。

●波除稲荷神社
中央区築地六丁目20-37

中央区築地にある神社。災難をのぞき波を乗り切る神様として、まつられている。氏子地域は、築地一帯。

●住吉神社
中央区佃一丁目1-14

中央区佃にある神社。佃島ができたときに、大坂佃の住吉神社から神を分けられ、この地に置いた。氏子地域は、月島、勝どき、豊海、晴海など。

●住吉神社の例祭
毎年8月6日と7日に行われる。3年に一度の本祭りでは、獅子頭や八角形のみこしが出され、船にのせて月島、勝どき、佃一周する。

